○ 奏でる喜び・音楽の力

７月２日（水）、バイオリニストの近藤くろさんが来校し、子どもたちに音楽の授業をしてくださいました。バイオリンを全員弾かせてもらい、そのあと演奏を聴き、バンドリンの合奏も味わうことができました。

授業の後半は、ブラジルの習慣にあるRoda＝輪というホームコンサート形式の時間となり、子どもたちは、自分たちができる楽器を演奏し、楽しむことができました。

○ 「リオ神戸、繋がる想い」プロジェクトへ！

７月８日（火）に、Lontra Musicスタジオで、昨年リオ・神戸市姉妹都市提携５５周年記念式典で歌った**RioeKobe,Cidades-Irmãs　神戸とリオ、繋がる想い**のビデオクリップ収録を行いました。

これは、神戸市出身・音楽講師の熊本尚美先生が、日伯国交樹立１３０年の節目に、神戸の子どもたちにもこの曲を歌い継ぎながら先人の努力を知ってもらい、リオとの交流がますます盛んになることを期した取組です。

ご自身が作曲され、リオ在住歌手のMAKOさんや小野リサさん・リオ市の合唱団を巻き込んで発案し、実現しました。

子どもたち・教員・保護者有志の方、リオのブラジル人みんなで作ったハーモニーが日本に届き、一人でも多くの子どもたちが想いを未来につなげていってくることを期待します。

○「聞くこと」から喜びを味わう

２カ月に一度、全校朝会でリオ日学の教員が順番に自分の専門分野や興味のあることを題材に、子どもたちに話をします。

「聞くこと」から話の内容を理解して、自分ならこう考える、自分の生活に取り入れてみよう、など主体的に物事に向き合い、意見が言えるようになることをねらいとします。

「話を聞く喜び」を味わうことのできる子どもに育ってほしいと願います。

＜ 5/ 2　山本先生「失敗を乗り越えて」＞

「失敗図鑑」という本が図書室にあります。そこから２人紹介します。一人目は坂本龍馬です。彼は子どもの頃、泣き虫で勉強もできず学校に来るなと言われました。姉が信じてくれ、剣術を教わり自信をつけ、「日本を今一度せんたくいたし申候」「我がなす事は我のみぞ知る」と、国家再建に力を尽くします。

二人目はオードリーヘップバーンです。映画の女優を目指すも、背が高くてオーディションに受からなかったけれど、バレリーナの経験から笑顔が素晴らしく、その後、活躍できました。「子どもより大切な存在ってあるかしら」と、ユニセフ親善大使になって飢餓の子どもを助ける仕事をしましたが、最後は病気になって６３歳で亡くなてしまいます。

この二人に共通していることは「失敗を乗り越えて、次はプラスに変える」「失敗は成功のもと」と努力したことです。皆さんも真似てみましょう。

＜ 7/ 1　松平先生「文化祭でできること」＞

これまでの文化祭を写真で見ながら振り返りましょう。

2016=空手、腹ペコ青虫・ぶす（英語劇）、不思議の国のアリス

2017=担任とギター演奏、連邦大と金太郎、リオデジャネイロ音頭舞踊

2018=「ハルとナツ　届かなかった手紙」を移民１１０周年記念で演じる

2019=フルートとギターでイパネマの娘演奏、日系太鼓とコラボでソーラン節

2020=PTA合唱パプリカ（歌と踊り）連邦大とオズの魔法使いミュージカル

2021=コロナ禍お客さん無、学習発表会（本の紹介・漢字の成り立ち・ハンドベル）紅蓮華ピアノ演奏・東京2020音頭、三年峠

2022=建国200周年ブラジル人によるサンバ教室、壁画作製、Cidade maravilhosa合唱

2023=「自分たちの思いをかなえよう」ギターとリコーダーのアンサンブル、ポルトガル語の歌、劇・桃太郎、カラオケ大会、クイズ大会

2024=「みんなで楽しもう」特技披露（お手玉・竹馬・けん玉・折り紙）、劇・大きなかぶ、日学Ｔシャツを全員で着用

このようにその年ごとに考えて文化祭を成功させてきました。さて、今年はどうしますか？皆さんで考えましょう。